



中村 しずく

進学を機に前橋市に住み始めてから、前橋市のことをもっとよく知りたいという思いで、ワカモノ記者の活動に参加しました。取材や記事作成を通じて、前橋市の魅力や進化を発信することができ、非常にうれしく思います。活動を始めてからの2年間でも、前橋市はどんどん変わっていると感じました。新しい観光施設の開設や地域のイベントの充実など、前橋市の成長を目の当たりにすることができました。この活動がなければ聞けなかった話や、できなかった体験が多くあり、周囲のサポートに感謝しています。ここでの貴重な経験を今後に生かせるよう励みたいです。



茂木 春香

2年前、コロナ禍で閉鎖的になってしまった大学生活に漠然とした不安や物足りなさを抱えている中で、「今だからこそ新しいことに挑戦したい」とワカモノ記者に応募しました。コロナ禍では、自分が住み続けてきた最も身近な地域であるはずの前橋市とのつながりも薄れてしまったように感じていましたが、ワカモノ記者としての活動のおかげで自分なりに地域とのつながりを取り戻し、新鮮な経験や感情を得ることもできました。多くの取材をした中での出会いを通じて前橋市のエネルギーを肌で感じ、私も地元の活気や愛着をつないでいける市民でありたいと強く思いました。そしてその意欲を、地域活性化の他の活動にもつなげ、充実した学生生活を自分でつくることができました。貴重な機会やきっかけをありがとうございました！



梶田 結衣

私はワカモノ記者として2年間活動する中で、前橋市について深く知り、興味を持つことができました。たくさんのインタビューをする中で、前橋市の「昔」と「今」を学ぶことが多かったです。新陰流祖祭の取材では歴史ある上泉の様子、戦争体験者へのインタビューでは77年前の前橋市の記憶を、SDGsに取り組む企業や前橋市アーバンデザインの取材では前橋市がパワーアップしている様子を実際に感じる事ができました。どの取材の中でも、市民が前橋市に愛着を持ち、大切に想っていることが伝わってきたことを覚えています。ワカモノ記者での経験を通じて、前橋市の魅力を改めて発見することができました。これからもふるさと前橋市に注目していきたいです！2年間ありがとうございました。

SHOP CAFE Qu

カフェやショップ、休憩所として利用できます。ショップでは、市内の福祉施設で作られたパンや焼き菓子、雑貨などを販売。多様な人たちの働く場でもあります。定期的に展覧会やワークショップなども開催しています。

場 田口町 36 (道の駅まえばし赤城内)

時 2月29日(木)まで 10時~17時 3月1日(金)から 10時~18時 (火曜を除く)



ワカモノ記者

第5期メンバーを募集!

広報まえばしで、市内のさまざまな事を若者目線で取材し、情報発信するワカモノ記者を募集。取材や2カ月に1回程度開催する編集会議に参加し、広報紙編集に携わったり、SNSでの情報発信をしたりする無報酬のボランティア活動です。

事前に参加者向けの研修会も開催。文書の書き方や写真撮影などの基本を学びます。また、取材には職員が同行。編集などの経験がなくても安心です。活動予定や内容など、詳しくは本市ホームページをご覧ください。

④ 4月1日(月)時点で市内在住・在勤・在学の18歳~29歳で、4月13日(土)開催予定の初回研修会に参加できる人、10人程度(選考)

任期=令和8年3月31日(火)まで

⑤ 3月15日(金)までに申し込みフォームで

本市ホームページ・申し込みフォームはこちら



第4期

ワカモノ記者

2年間の活動を振り返って

☎ 秘書広報課 ☎ 027-898-6642

令和4年度からスタートした市民編集委員「ワカモノ記者」第4期メンバーが活動の任期を迎えました。これまで市内のさまざまな場所で活動し、発信してきた2年間。活動の振り返りを道の駅まえばし赤城・SHOP CAFE Quで実施しました。



この活動を通して、多くの人たちがそれぞれに日々を全うし、それぞれに模索し、楽しみながら生きているということを強く実感しました。特に印象的だったのが、昨年「はたちのつどい」とコラボしたことでした。拙いインタビューでしたが、このインタビューひとつに連なるたくさんの方の存在があると思うと、熱が入りました。ワカモノ記者の立場から縁ができた人、知り得たこと、それらが私につながっていると思うと、とてもうれしくなります。ささやかな言葉しか紡げなかったかもしれませんが、このように広く伝えられる機会となり、私にとってとても心強い2年間でした。



金杉 美咲

ワカモノ記者の活動では、他ではできない貴重な経験ができました。取材した中で特に印象に残っているのは、演出家・藤田貴大さんへのインタビュー。国内外で活躍している人と前橋の街につながりがあったのはうれしい驚きでした。緊張してしまい、うまく話を引き出せなかったことは反省点でしたが、コロナ禍を経て変遷していく時代にどう向き合っていくか語った姿に刺激を受けました。周囲の人に「記事を見たよ」と連絡をもらうこともあり、すごくうれしかったです。活動を通して、より前橋の街に興味や愛着が沸くようになり、社会人だからと迷いながらも参加を決めた2年前の自分に感謝したいです。2年間ありがとうございました。



蜂須 理子

私がこのワカモノ記者の活動に参加しようと思ったきっかけは、県外出身の大学の同級生に「前橋市のいいところってどこ?」と聞かれたことでした。当時の私は、その質問に答えることができず、自分なりの答えを見つけたいと思い、この活動に参加しました。SDGsに取り組む企業の取材や地域おこし協力隊、前橋文学館館長・アーツ前橋特別館長へのインタビューなどを通して、前橋市のこれからの未来について考えることができました。県庁所在地としての都市機能を持ちながら、田園風景の広がる雰囲気を残している。そんなところが前橋市の魅力であると気付くことができました。ワカモノ記者の活動は、今後社会人として生きていく上で大いに生かせると思います。



執使 河原 花菜